

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 2 回 松阪市教育ビジョン検討委員会
2. 開 催 日 時	令和 7 年 5 月 22 日(木)午後 1 時15分～午後2時 55分
3. 開 催 場 所	鎌田中学校 2 階 会議室
4. 出席者氏名	(委 員)◎谷口委員、○奥村委員、光山委員、鈴木(寛)委員、服部委員、福田委員、西尾委員(◎委員長 ○副委員長) (事務局)若山事務局長、熊野事務局次長、西浦参事兼教育総務課長、三田学校教育課長、脇葉参事兼学校支援課長、中西子ども支援研究センター所長、瀬古参事兼給食管理課長
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0 人
7. 担 当	松阪市教育委員会事務局 教育総務課 電 話 0598-53-4381 FAX 0598-25-0133 e-mail syom.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

《テーマ》

「子どもたち一人ひとりが個性を輝かせ、望む未来を実現し、持続可能な社会の担い手を育むために大切にしたいこと」

① 今後の学校教育に期待すること

② 学校教育で大切にしてほしいこと

～地域とともにある学校の視点を踏まえて～

(学力の育成、キャリア教育の推進、生徒指導の充実、安全教育の推進、
防災教育の推進、食育の推進、地域とともにある学校づくりの推進)

議事録

別紙

【第 2 回 松阪市教育ビジョン検討委員会 会議メモ】

1. 日 時 令和 7 年 5 月 22 日(木) 視察：午前 10 時 40 分～午後 1 時 10 分

検討委員会：午後 1 時 15 分～午後 2 時 55 分

2. 場 所 鎌田中学校 2 階 会議室

3. 出席者 委員：谷口委員、奥村委員、光山委員、鈴木(寛)委員、服部委員、福田委員、西尾委員
事務局：中田教育長、若山事務局長、熊野事務局次長、西浦参事兼
教育総務課長、三田学校教育課長、脇葉参事兼学校支援課長、中西子ども支援研究センター所
長、瀬古参事兼給食管理課長

4. 内 容

視察

1. あいさつ(教育長、委員長)
2. 委嘱状交付
3. 鎌田中学校の取組について(鎌田中学校からの説明)
4. 地域交流センター視察
5. 各教室参観
6. 給食試食

検討委員会

1. 協議事項

《テーマ》

「子どもたち一人ひとりが個性を輝かせ、望む未来を実現し、持続可能な社会の担い手を育むために大切にしたいこと」

- ① 今後の学校教育に期待すること
- ② 学校教育で大切にしてほしいこと

～地域とともにある学校の視点を踏まえて～

(学力の育成、キャリア教育の推進、生徒指導の充実、安全教育の推進、
防災教育の推進、食育の推進、地域とともにある学校づくりの推進)

内容は以下のとおり

開会 司会

1. 検討委員会について

視察感想

委員

一般的な中学校で先進的な場所があることに、とても驚きました。寂しさや甘えたいという子どもの思いを地域で見守ることで、非行に走っていきことがない教育に繋がっていると思いました。これだけオープンな感じなので、警備面では少し心配な部分があるなと思いました。

委員

学校の教育目標、目指す学校像が展示物で教室全体に共有されていました。子どもたちと話をした時にも、生徒自身が自分の言葉で目指す子ども像を語れているというのが、とてもすごいなと思いました。

委員

本がいろんなところにあり、誰でもどこでも見られるのがいいなと思いました。また外部の方と関わる機会が、普段からあるということが感じ取られました。

委員

ルールがしっかりと決まっていて、黙食をする姿は先生方の指導の賜物だと思いました。綺麗な校舎で iPad や電子黒板を使った授業は、いい意味で自分が居た時から大きく変わっていると思いました。コミュニティ・スクールをプラスしてさらに発展していったほしいと思いました。

委員

教育ビジョン検討委員会の委員として見させていただいて、鎌田中学校が松阪市の目指す学校像のモデルとなる学校であると改めて思いました。

命に関わる「防災」と文化的な「祭り」を柱に、地域と一緒に活動し、子どもたちの学習内容が即、社会参画に繋がっていく、そういった教育内容と仕組みづくりが上手に図られていると思いました。こういったところが、今回の「子どもたち一人ひとりの個性を輝かせ、望む未来を実現し、持続可能な社会の担い手を育むために大切にしたいこと」というテーマにすごく合致するなというふうに思いました。

自分なりに考えると、子どもたちが自分を作っていく、自分づくりのその先に、まちづくりや社会を作っていくことがあります。持続可能な社会の担い手というのが、ずっと繋がっていくのがいいなと思いました。いろいろな大人に支えていただかないといけないので、学校だけではできませんが。

委員

私が行かせていただいたクラスの先生は松阪生まれ、松阪育ちで、松阪で働いていただいている先生でした。松阪市で生まれ育った生徒が、松阪市の教育で活躍されている姿を見て、教育長が目指している姿はこんな感じなのかなと思いました。

委員長

生徒に給食を食べているときに鎌田中学校のいい所を述べていただいたら、さまざま挙がってきて、母校に誇りを持っている所がすごくうれしく感じました。

私は松阪市の iPad の導入が早かったことに、子どもたちの繋がりが減っていくことを懸念していました。しかし授業を見させていただいて、電子黒板で生徒一人ひとりのノートが見え、誰

ひとり取り残されないということが iPad をもって実現していたことに驚きました。

(事務局から説明)

委員長

今後学校教育に期待すること、学校教育で大切にしてほしいことの二つを話合いたいと思います。

委員

せっかく大学の教育学部を卒業していても、先生にならない人が多いのが残念です。

委員

私は教員という自分の仕事が、一緒に寄り添って未来をつくれて、やりがいがあって大好きです。ただ、その分責任も大きいです。

「今後の学校教育に期待すること」の話題で、今何でも学校教育に任されることが多く、一般の学校に対する期待が膨らんでいくのが、辛くて大変だと思います。

委員

学校は勉強をするところだけではなく、社会性を身に付けるところでもあります。いろいろな人がいて、いろいろな経験を積んでいくことで社会に繋がっていくと思います。「こういう力を活かしていくといいよ」と先生に言われた娘が、「学校に行かないと学べないことがある」と気づき、将来の仕事として先生を目指しています。

家族以外の人からの声かけが非常に大事で、学級にいることでしか経験できないことは、日頃子どもたちの成長の糧になっていると思います。

委員長

教師はやりがいがあり、自分も成長できる良い仕事です。でも、ここ最近は様々な対応が教師に求められ、教師は疲弊しています。また、子どもが中高生になると子育てにつまずいた親御さんたちが、学校にたよるということがあります。そのようにいろいろな対応を求められる仕事に教師はなりつつあります。

教師の良さについて、もっとアピールできるように、待遇改善が図られるようにならなければいけません。学校に対する相談や意見、提案の受入れ口が作られるといいなと思います。

教師の仕事にやりがいがあっても利点が感じられないと、一定の競争率がなくなり教師の質が落ち、学校や教師に対する信頼が失われ、悪循環に陥ります。最低でも教師の待遇改善は図られないといけません。

委員

「学校教育に期待すること」として挙げられることは、一人ひとりの子どもの幸せと教師の幸せ、みんなの幸せがイコールになって実現できることだと思います。そのためには豊かな価値観に

触れ、豊かな心を育み、多様な他者がお互いを認められるような教育が必要です。教えられてやるのではなく、自分がやりたいことを自分で見つけ、何度でも失敗できる環境を作り上げていくことが大事だと思います。

学校支援課長

学校教育で大切にしてほしいことも踏まえてお願いいたします。

委員

学校生活でしかできないこと、地域が応援できることを分けることが大事です。学校の集団生活の中で生きる力を育む、そこに地域が外側から絡んでいくというのが大切だと思います。

委員

地域と共にある学校づくりは、学校だけでは成り立たないです。学校、家庭、地域が子どもを育てるという当事者意識を持って、子どもを育てていかなければいけません。個別最適な学びと共同的な学びを通して、探究して何かを作っていくアントレプレナーシップ教育(起業家教育)が流行っています。学校だけではなく、いろんな世界で頑張っている大人と出会わせていくことが大事です。

多様な他者が認められる集団作り、多様な人と出会わせて、豊かな体験をできる場所が学校でなければいけません。学校だけでは限界があるので、学校がやりたいことを発信して協力者を求めたり、行政がこんなんでできるよってアピールしたり、みんなで支えあっていくことが大事です。

委員

教育長がおっしゃった松阪市で育った子が地元愛を持ち、大人になって松阪市で働くようになるためには、インフラを整備する人達を知ってもらえる機会を作ることが大事です。このような機会を作ること、子どもたちは刺激を受け、地元愛がより深まると思います。自分は農業をやっていて、農業を守る意識が強いので、それは子どもたちに伝えていきたいです。

「学校教育に期待すること」でいうと、学校で過ごす時間や宿題の量はクラスや学校によって変えず、平等でないといけないと思います。学校と学校以外の時間のメリハリが、とても大事です。

委員

学校で出来ること、地域で出来ること、家庭で出来ること、行政で出来ること、それぞれ分けて考える必要があります。学力差がある子どもたちのバランスをとりながら、ちょっと背伸びして学習し成長できることを学校で勉強することが大事です。それこそ行政で言うと、企業誘致が得意な課と連携し、福祉教育を行うといった子どもを育てていくうえで協力することが必要になってきます。

委員

学校教育に期待しすぎて、本来学校教育で行うべきでないことまで入ってきている部分があると思います。あくまで学校は子どもが中心で、地域が応援をするべきです。学校は家庭、地域と連携・協働しながらも、地域づくりのための学校であってはいけません。

委員長

様々な立場からのお話をありがとうございました。夢と希望のある答申を提出していきたいと思しますので、今後とも、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。委員の皆様、本日はありがとうございました。

(以上で終了した。14:55 終了)